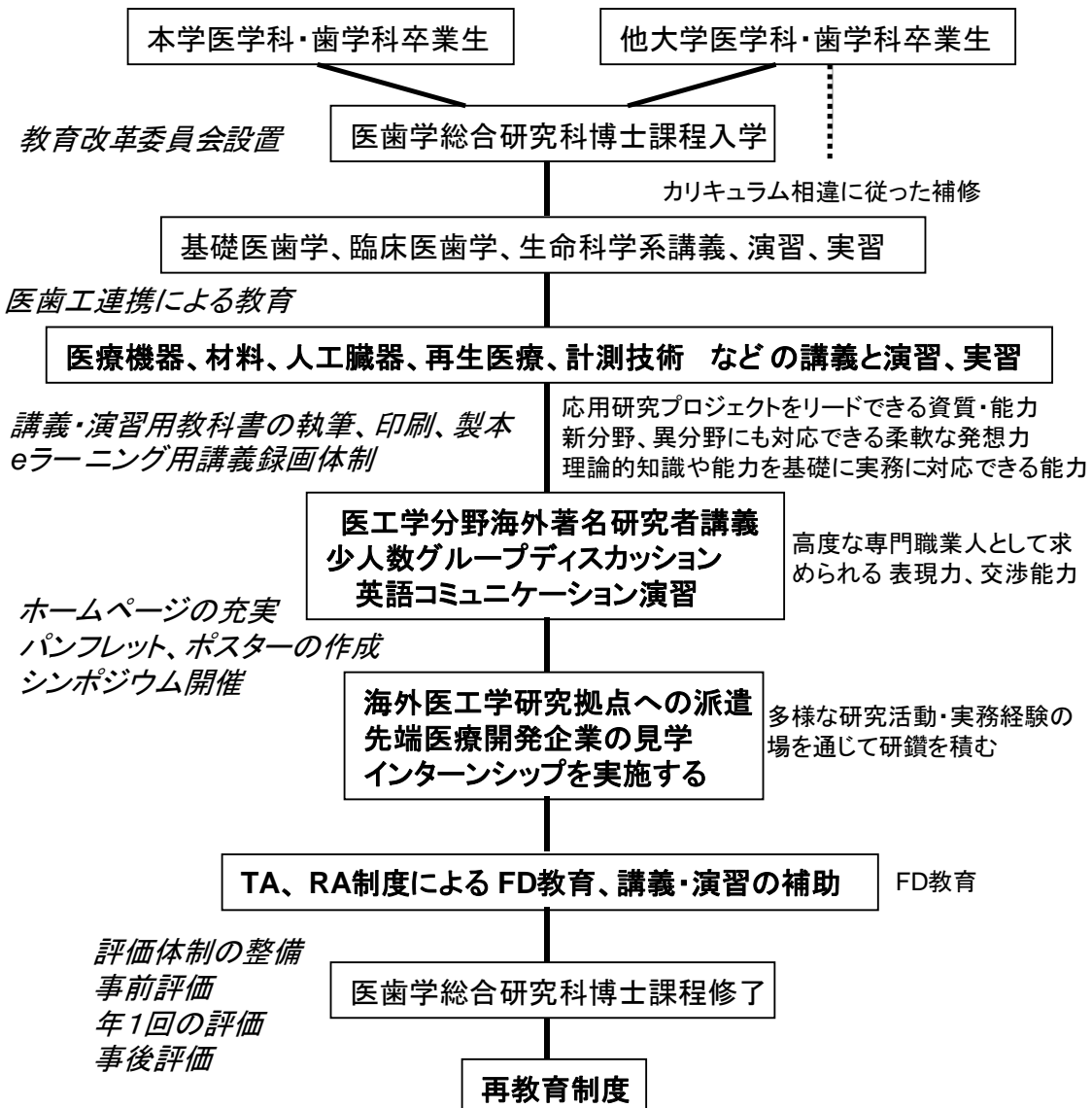
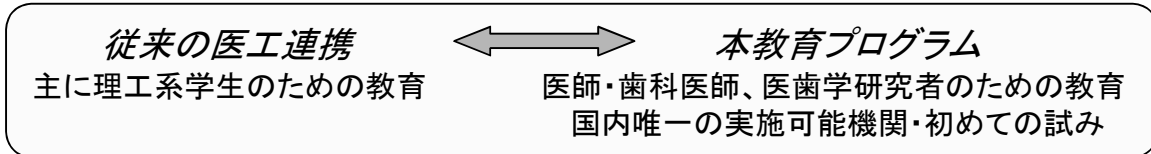
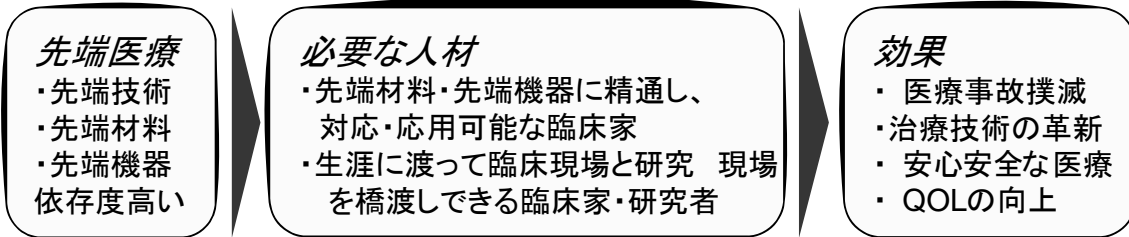


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東京医科歯科大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	大学院から医療現場への橋渡し研究者教育		
主たる研究科・専攻名	医歯学総合研究科口腔機能再構築学系専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科・専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 田上 順次		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>人類の生命と尊厳を維持するために医療は最も直接的に関っており、その発展の基礎となる生命科学の果たす役割は極めて大きい。一方、医療現場では人体機能の再建に多くの材料が用いられ、また診断・治療・手術に多くの医療機器が使用されて、これらが医療の進歩を支えながら救命、治療及びQOLの向上に大きく貢献してきた。元来歯科では材料と機器が治療に重要な役割を果たしてきたが、最近では医科でもこれらの比重が増しており、先端医療を実施するために材料、医療機器の知識、操作技術の修得が必須となっており、これらは医療安全という点からも重要である。</p> <p>このような現状の中でこれまでの大学院教育を概観してみると、近年の科学技術の進歩と共に医歯学系大学院の研究は総じて生命科学へ特化し、高度化する傾向が強くなってきている。実際、東京医科歯科大学でも大学院医歯学総合研究科では生命科学領域の専門分野で競争力ある研究者や教育者及び研究指導者の育成に大きな成果を挙げている。しかし一方、外科系あるいは歯科臨床系大学院生にとって、生命科学領域研究を課程修了後も継続、発展させる事は、これらの研究が診療現場にフィードバックされにくいため、極めて難しくなっているのも事実である。</p> <p>本大学では高度な医療技術を有するアカデミックドクターの養成を目指しているが、特に歯科系や外科系の臨床分野では社会に貢献できる優れた医療人として高度な医療技術を修得することが必須要件である。しかし、医歯学領域の研究が生命科学へ特化し、高度化する傾向にある中で、しかも大学院課程という限られた時間内に高度な医療技術を修得することは大変難しい。</p> <p>本取組は、このような現状に鑑み、医歯工連携を基盤にして、医療技術の高度化やこれらに直接関連する材料・機器の開発研究など、臨床への直接的なフィードバックを基調とした課題に取組み、課程修了後も研究を継続して診療現場との橋渡し役になれる工学的センスを持った医療(歯学・医学)の高度専門職能人の育成を目的として行うものである。</p> <p>これまで、人体機能の再建や診断・治療・手術に多くの材料・機器が応用されて、これらが医療の進歩を支えながら医療・福祉の向上に大きく貢献してきた。したがって、このような材料・器機の開発は医学・歯学研究の中で極めて重要な位置づけがされているが、研究・開発現場でこれらに携わってきたのは工学出身者が多くを占め、医療人との連携によって互いに補う形で研究されてきた。そこで、先端医療を開発・実施するためには実効性のある連携を構築する取組みが必要であり、社会からも強く要求されている。しかし、医療従事者が工学的センスを持ってこれらの研究に携わることができれば、医療現場のニーズをより効率的に反映させたプロダクトの開発に繋がる。</p> <p>本研究科は、医歯学に関する高度な知識及び研究能力を有する医師・歯科医師、研究者の養成を目的として設置されており、医歯系の総合研究科として多くの実績をあげてきた。例えば、論文引用割合は全国大学中で第一位である。一方、本学は全国初の生体材料・工学に関する歯科材料研究所を1951年に設置しており、多くの医療用材料を世に送り出し、現在では生体材料工学研究所として活動している。したがって、本学はこのプログラムの特徴とする教育が実施できる人材を十分に擁しており、設置されている研究科、研究所等の体制から見ても、医師・歯科医師に対して医歯工連携教育が行えるのは、本研究科において他にはない。</p> <p>[取組内容]</p> <p>(1) 公募は、本学大学院医歯学総合研究科博士課程に所属する外科系あるいは歯科臨床系と生体材料工学系大学院学生を対象に行う。</p> <p>(2) 選抜された大学院学生は、大学院教育改革委員会メンバーの指導体制のもとに、医歯臨床科目教育プログラムおよび生体材料工学と人工臓器工学を含む医工学教育プログラムを履修して医療技術の高度化とこれらに関係する材料・機器に対する総合的な理解を求め、学術的な実験を行なわせることで外科系あるいは歯科系臨床に直接フィードバックできる課題研究の遂行を促し、博士論文を作成させる。</p> <p>(3) 単位認定に関する成績評価は、プログラムコーディネーターと大学院教育改革委員会の協議により行い、学術活動評価基準に基づいて厳正に判定する。また、4年次修了後、発表された学術論文内容の審査と公開セミナーの結果で大学院学生の到達目標の達成度を判定する。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

大学院から医療現場への橋渡し研究者の養成



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「研究と臨床現場の架け橋となる工学的センスを持った医療人の養成」という社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿って大学の長を生かした医歯工連携教育が体系的に整備されている点が高く評価できる。ただし、医歯工連携教育に必要なファカルティ・ディベロップメントについては組織的に推進するための体制等について更なる工夫が望まれる。

教育プログラムについては、人材養成目的を具現化するための医歯工連携教育に特徴があり、特に海外医工学拠点への派遣、先端医療開発企業でのインターンシップの取り組みが高く評価できる。